

# 音楽科

## 【研究主題】

音楽のよさや美しさを、豊かに感受できる生徒の育成

## 【研究副主題】

音楽に関する言葉を用いて、自己の感性を磨く学びの追究

## 公開授業

学級：2年2組 授業者：力田和歌子



## 作曲者が音楽で語る「我が人生」 ～作曲家の生き様を音楽から感受しよう～

中学校音楽科の学習指導要領では、鑑賞領域において、「曲想と音楽の構造との関わり」や「音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり」を理解することが求められています。

本題材では、ベートーヴェンの不朽の名作「交響曲第5番ハ短調」の鑑賞に取り組みます。

彼自身が、「運命はこのように扉を叩く」と語ったとされるように、この作品の背景には、彼が生きた時代や人生そのものが大きく影響しています。

鑑賞を通して、このことへの気づきを促すことによって、楽曲には作曲家という一人の人間の人生が見え隠れしていることや、偉大な作曲家も私たちと同じように悩んだり笑ったりしながら生きていたことに思いを至らせ、生徒たちに **クラシック音楽を身近に感じさせたい** と思います。題材全体の学びを経た後に、作品との対話を通じて、生徒がベートーヴェンからのメッセージを感じ取ることができるよう導いていきます。

本時は、**音楽に関する言葉を用いて、2つの主題や楽曲の構成を捉える過程**を御覧いただきます。

## メタ認知との関わり

鑑賞では、音や音楽を「音楽的な見方・考え方」を働かせて聴くことができるようにすることが肝要です。その上で「**焦点化された音楽を形づくっている要素に着目して**」聴取させ、作品の特徴を捉えさせることにより、自分と作品との距離を縮めていきます。また、感受した曲想を生み出している音楽の構造について、これまでの学びを生かしながら、全員が共通の言葉や概念を共有しながら学習を進めていきます。

長崎大学教育学部附属中学校教育研究協議会

令和6年12月13日（金）13:00 ～ 16:05

詳細はこちら

